

代ゼミ
特別説明会
医学科志望者
必聴!

島根大&広島大医学科 入試説明会

聴講無料
申込不要

国立大学医学部の担当先生をお招きしての特別説明会。各大学の概要や入試について説明いただき、個別相談も行います。不明点が一掃されるとともに「合格したい」との意欲を高めてくれることは間違いありません。奮ってご参加ください。

日時

2014年3月23日(日)
13:30~15:30

場所

代々木ゼミナール広島校本館
(JR広島駅新幹線口徒歩5分)

島根大学 Shimane University



医学科長 **田邊一明 先生**

大学別説明・講演 **13:30~14:00**

個別相談 **上記時間を除く**

広島大学 Hiroshima University



医学部教授 **田中純子 先生**

大学別説明・講演 **14:15~14:45**

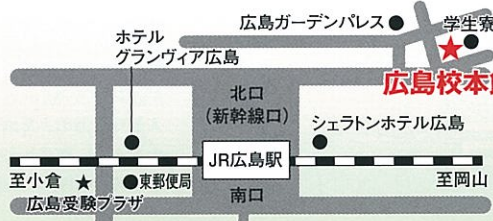
個別相談 **上記時間を除く**

問い合わせ先:0120-73-4305 (国立大学医学科入試説明会事務局)

代々木ゼミナール
SAPIX YOZEMI GROUP

広島校本館

〒732-0053 広島市東区若草町8-17 (JR広島駅新幹線口より徒歩5分)



0120-73-4305

[窓口受付時間] 広島校本館 / 平日 10:00~18:00 (日・祝 8:30~17:00)



医学部入試の現状

医学部入試では2008年度から定員増が続いており、2014年度では5大学20名の増員が文部科学省から発表されました(2013年12月16日現在)。各年度の増員数は2009年をピークに年々小幅になっていますが、国公立・私立全79大学の入学定員は9,061名になり、最大の定員数となっています。一方で医学部人気も高い状態が続いており、合格するには依然として高レベルの学力が必要です。選抜方法では、国公立大は2次科目を増やす傾向が続いており、理科については受験科目を指定する大学もあります。以下に述べる近年の医学部入試の実態を参考にした上で、的確で周到な志望校対策を立てましょう。

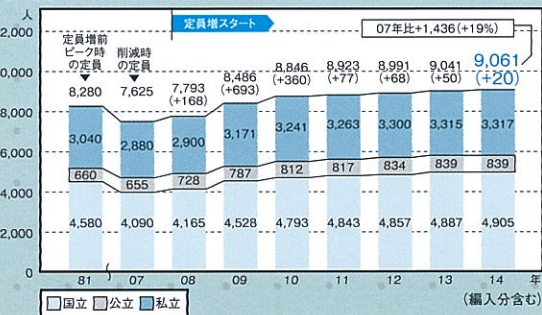
医学科定員はこの7年で1,436名増に

医師不足解消のために2008年度入試から始まった医学部の定員増は、2014年度までの7年間で1,436名(国立815名、公立184名、私立437名)になりました【図表①】。国公立・私立全79大学のうち、公立の3大学(横浜市立大、名古屋市立大、大阪市立大)を除き、入学定員は各大学で100名を超える規模となっています。入学定員については、「平成25年度(2013年度)入学者から、十分な教育環境を整えることができる大学においては、現行基準の上限の125名を超え140名まで増員が可能」(文部科学省発表)になりました。

2014年度の増員を含め、既に125名以上の定員(編入等を含む)を設けている大学は、以下の10校です。

(国公立) 弘前大132名、東北大135名、秋田大127名、山形大125名、福島県立医科大130名、筑波大126名、新潟大127名、山梨大125名、三重大125名
(私立) 岩手医科大130名

【図表①】 医学科入学定員の推移



10校のうち6校が東日本大震災による医師不足が懸念される東北地区の大学です。

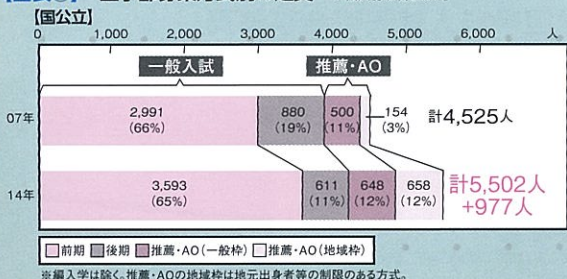
2010年度以降の増員は、

- ①地域の医師確保のための増員
- ②研究医養成のための増員
- ③歯学部入学定員削減による増員

の3つの枠組みで行なわれていますが、この5年間の増員数(575名)の内訳は、①=492名、②=39名、③=44名です。この増員分については2019年度までの期限付きであり、それ以降の取扱いは、その時点の医師養成数の見通しなどを踏まえて判断することになっています。

①の枠組みは地域医療の従事を条件に奨学金制度を設けていますが、出願は地元の受験生に限定する場合と全国の受験生を対象とする場合とがあり、大学により異なります。国公立大ではこの枠組みを一般入試で募集する大学もありますが、多くの大学は推薦入試、AO入試として募集します。2014年度入試では推薦・AO入試の募集定員のうち、約半数が地元の受験生に限定した募集(地域枠)となります【図表②】。

【図表②】 医学部募集方式別の定員 ※編入分は含まない。

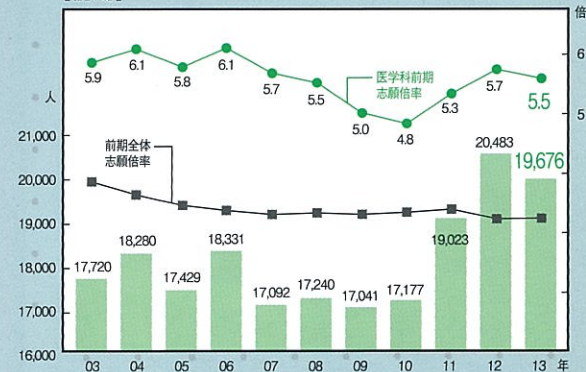


高い水準が続く医学部人気

こうした定員増も受け、医学部の人気は高まっています。国公立(一般入試)の志願状況を見ると、2013年度入試はセンター試験の難化の影響もあり志願者が減少しましたが、定員増が始まった2008年度以降の志願倍率は前期で国公立大全体の倍率を大きく上回る5倍前後で推移しています。一方、後期は定員減のため上昇傾向にあり、2013年度入試では19.7倍と2008年度と比べて明らかに高くなっていることが分かります【図表③】。

【図表③】 国公立(医・医)志願者数・志願倍率の推移

【前期】



【後期】



国公立大は前期重点型入試に

国公立(医・医)の一般入試の募集人員は、前期が85%、後期が15%であり、国公立全大学の配分(前期80%、後期20%)に比べ、前期の配分が高くなっています。前期のみ募集する大学は24校(48%)と増えてきており、後期の募集人員は年々減少する傾向にあります。この状況から、医学部入試は前期一発勝負の様相が強まっているといえます。2014年度入試で後期30名以上募集する大学は、一般入試は後期のみ実施する山梨大(80名)のほか、奈良県立医科大(53名)、信州大(45名)、岐阜大(35名)の4校であり、信州大以外は後期の方が多くなっています(山梨大は後期のみ募集)。